

桜の木の下は？

「桜の木の下には屍体がある」といえば、梶井基次郎の言葉。しかし、今回の内容は、文学にはならない話です。

大阪北部は、9月初旬に1時間に120ミリの雨を体験しました。全国版のニュースでご覧になった方もおられると思います。筆者は出張中だったので、体験できませんでしたが、ひどい雷雨だったそうです。拙宅の近所にも、多少の被害がありました。

1つは、拙宅から直線で20メートルほど離れたお宅。玄関の前が雨水であふれ、危うく床下浸水になる場所でした。8月に続けて今年2回目。排水能力を超えた雨水が、そこに集まるようです。2つ目の被害は、幅5メートルほどの川の川底。さっくりと底がえぐられました。石と石が水の中でぶつかり合う音が、とてつもなく恐ろしかったそうです。夜中ですから、さぞ大きな音に聞こえたことと思います。また、川底から横に土がえぐられると、住居の下がえぐられますから、危機一髪被害だったわけです。

拙宅は、上流にダムのある一級河川(幅30メートルほど)と、その支流の分岐点のそばにあります。従来は上流にダムがあるので、洪水の心配は無用だったのですが、今回の豪



▲山桜の根が護岸を圧迫し、ひび割れたコンクリートの堤防

雨で、大水対策も考える必要が出てきました。

そんな問題意識をもって地域の方の意見を聞いていると「堤防がひび割れている」という情報が入ってきました。現地を確認すると、樹齢50年程度の山桜の根が護岸を圧迫し、ひび割れさせているようです。第18回で紹介した、せんだんの木を伐採せざるを得なかったのと、ほぼ同じ状態です(公有地である堤防に巨木が育ち、その根が護岸を壊した状態)。しかもその場所は、水流がまともにあたるため、その堤防が崩れると、地域全体に水害が出てしまいます。春には美しい桜が咲き、橋を渡って住居に戻る時の楽しみになるのですが、その木の下では洪水のリスクを抱えているわけです。山桜は、ずっと以前に住んでいた方が植えられたもの。現在の住民は、安全優先で伐採を希望され、地域の方々も「残念だけどやむを得ない」という雰囲気です。

河川から2メートルの堤防は国有地。住宅地に残る貴重な空間です。上手に管理する方法を住民が考え、役所と協力する仕組みを工夫する必要がありそうです。

(MBO実践支援センター代表)

